

神よ、十戒に背いて故意に罪を犯す者となることが決してないよう、御身の恵みを祈り求めます！
おお、聖なる原理よ、聖霊の賜物、カリスマ、または霊媒能力に対して、故意に冒瀆することが決してないよう、御身の恵みを祈り求めます！

おお、神の根源的原因よ、私の行いにおいて、イエスの神の模範を決して否定することがないよう、御身の恵みを祈り求めます！

神の父よ、来たるべき出来事の書である黙示録の第14、19、21、22章に含まれる神の約束を決して怠ることがないよう、御身の恵みを祈り求めます！

おお、神よ、御身の教えの使者であり、御身の神の祝福の授与者である、御身の聖なる天使たちを決して疑うことがないよう、御身の恵みを祈り求めます！

最後に、主よ、御身の存在、御身の無限の力、そして御身がその子供たちのために用意された聖なる運命を否定することによって、自分自身の裏切り者となることが決してないよう、御身の恵みを祈り求めます！

神は私の神聖なる起源である。

神の汚れなき正義は私の盾である。

神の神聖なる賜物は私の神聖なる恵みである。

神の十戒は私の人生の計画である。

神の聖なる天使たちは、進化の旅路における私の兄弟である。

神の真理は、子である私自身の真理である。

神の愛は私の神聖化の務めである。

神の神聖なる美德は、子である私自身の美德となるであろう。

神の聖なる存在理由は、私の存在理由ともなるであろう。

神の国は空虚な言葉ではない。

神の国は偽装ではない。

神の国は知られたる真理である。

神の国は実践されたる愛である。

神の国は蓄積されたる美德である。

神の国はすべての者の中にある。

それを開発することは、各人の責務である。

すべてのものには聖なる最終目的がある。

『永遠の福音』とともに学びなさい。

『黙示録』第14章1節から6節を見よ。

（霊たちは生まれ変わり、子供たちが存在し、彼らは大人たちに、すなわち聖なる報告に依存するであろう）

（今日の犯罪者たちは、昨日の人生において神聖なる助言から除外された子供たちである）
低俗で吐き気を催すような文学で満たされた山のような書物を保ちたいと望む者がいるなら、そうさせておきなさい。しかし彼らが肉体を離れるとき、『神の正義』は彼らに、神化する真理は『僅かなもの』とともにあり、そして『神』とともにあることを認識させるであろう。なぜなら、神は『永遠なる絶対者』だからである。

真理の霊

OSVALDO POLIDORO | オズヴァルド・ポリドロ

UNIÃO DIVINISTA | ユニアン・ジヴィニスタ

uniaodivinista.org

「神が望まれるように子供たちを教えなさい。そうすれば大人たちは真っ当になるであろう！」
書籍『永遠の福音と驚異の祈り』は、神が『黙示録』第14章1節から6節においてあなた方に約束されたものである。そして神が、完全なる『永遠の福音』、すなわち神主義（ジヴィニズモ）を約束されるためにのみ来られたのは、イエスがこの世を去る際に、**「私にはまだあなた方に言うべきことが多くあるが、今はそれに耐えることができない」**と述べられたからである。

しかしまず、神がモーセ、預言者たち、そしてイエスを通して授け渡されたもの、すなわち『行動の規範』を尊重しなさい。不浄な聖職者主義（クレリカリスモ）や私生児たる主義（イズモ）は、それを裏切り、罪を犯し、人々に罪を犯させることに決して飽きることはなかった。

1 – モーセは、神の律法と最初のペンテコステ、すなわち歴史上の賜物のバプテスマを受け渡した。これは『民数記』第11章で読まれるべき通りである。神の子らは、墮落を招く逸脱、欺瞞の商い、偽装、あるいは偽善などを避けるため、至高の律法と慰めの啓示を道標とすべきである。

2 – 人類にとって不幸なことに、そして神からの教えと恩寵の後に常に起こってきたように、すべてを改竄し、誠の礼拝の外見を押し付けたのは、ラビや司祭、あるいは職業的宗教家たちであった。

3 – そして神は、誰もが『旧約聖書』において読むべきように、預言者あるいは霊媒、そして天使あるいは使者の霊を通じ、模範たる御言葉すなわちメシアの到来と、すべての肉なる者への新たなペンテコステすなわち賜物の注ぎを約束された。それは『使徒行伝』が完全に記録する通りである。これらのテキストをよく研究しなさい。なぜなら、第二千年紀が終わる前に、恐るべき数々の激動がそれらを思い出させ、生きさせるからである。

1 – **私はあなたの神、主である。他に神は存在しない。**

2 – **崇拜のためにいかなる像も造ってはならない。**

3 – **神の名をみだりに唱えてはならない。**

4 – **週のうち一日は、安息と内省のために持つこと。**

5 – **父と母を敬うこと。**

6 – **殺してはならない。**

7 – **姦淫してはならない。**

8 – **盗んではならない。**

9 – **偽証してはならない。**

10 – **隣人に属するものを食ってはならない。**

御言葉は律法の主権を断言する

「行って、律法を生きなさい。」
「すべてが成就するまで、律法から何一つ消え去ることはない。」
「最も小さな戒めに対して罪を犯すことは、律法全体に対して罪を犯すことである。」
「私の父、私の母、そして私の兄弟とは、律法を聞き、それを実践する者たちである。」
「あなた方の行いに応じて、その通りに報いを受けるであろう。」
「不法をなす者どもよ、私から離れ去れ。」
「最後の一銭を支払い終えるまで、そこから出ることはない。」

イエスは神父たちをどのように扱ったか。

「災いなるかな、偽善なる司祭、律法学者、そしてパリサイ人たちよ。あなた方は真理の神殿の門に立ちながら、自ら入ろうとせず、入ろうとする者たちをも妨げている。」

「災いなるかな、偽善なる司祭そしてパリサイ人たちよ。淫乱な女たちや男娼たちが、天国への道においてあなた方に先立っているのだ。」

「災いなるかな、預言者たちを迫害し殺害した者たちよ。あなた方はさらに一人を殺すことになり、これらすべての罪に対して報いを避けられないであろう。」

『**聖なる霊媒(メディウニズモ)**』の知識に今すぐ入りなさい。しかし、それは神を通じ、聖書を介してであり、受肉した者であれ脱肉した者であれ、他のいかなる源からでもない。そして、『神の律法』を考えながらそれを行ないなさい。なぜなら、正しく用いるための根本的要因は『良心の浄化』だからである。

「主がご自身の聖霊を与え、すべての肉なる者が預言すればよいのに」―『民数記』第11章29節。

「わたしはあなたの末裔にわが聖霊を、あなたの子孫にわが祝福を注ぐ」―『イザヤ書』第44章3節。

「わたしはすべての肉なる者にわが聖霊を注ぐ。あなたがたの息子や娘は預言し、老人たちは夢を見、若者たちは幻を見るであろう」―『ヨエル書』第2章28節。

「なぜなら、この約束はあなたがたと、遠くにいるすべての者と、主がご自身に召されるすべての者に与えられているからである」―『使徒行伝』第2章。

「なぜなら、ある人には聖霊によって知恵の言葉が与えられ、他の人には知識の言葉が、他の人には信仰が、他の人には病を癒す賜物が、他の人には驚異を生み出す力が、他の人には預言が、他の人には霊たちを見分ける力が、他の人には種々の異言が、そして他の人にはその解き明かしが与えられているからである」―『コリント人への第一の手紙』第12章。

「愛する者たちよ、すべての霊を信じてはならない。むしろ、それらの霊が神からのものかどうかをためしなさい。なぜなら、多くの偽預言者がすでに世に出ているからである」―『ヨハネの第一の手紙』第4章。

「神は死んだ者の神ではなく、生きている者の神である。なぜなら、復活にふさわしい者は天の天使たちのようになるからである」―『マタイによる福音書』第22章30節。

「神もまた、しるし、奇跡、種々の驚異、そしてご自身の御心に従って分配された聖霊の賜物とをもって、彼らと共に証しをされた」―『ヘブル人への手紙』第2章4節。

「昔、イスラエルにおいて、神に伺いを立てに行くとき、人はこう言った。『さあ、先見者のところへ行こう。』今日の預言者は、昔は先見者と呼ばれていたからである」―『サムエル記上』第9章9節。

「そして、信じる者にはこれらのしるしが伴うであろう。すなわち、彼らは悪霊を追い出し、新しい異言を語り、蛇を手でつかみ、たとえ死に至るものを飲んでも決して害を受けず、病人に手を置けば、彼らは癒されるであろう」―『マルコによる福音書』第16章17節。

「人の子に対して罪を犯す者は赦されるが、聖霊に対して冒瀆する者は『神の正義』の前に罪を負うことになる」― イエス(『ルカによる福音書』第12章10節)。

(神聖なる聖書の記録は、神聖なる根本的真理をあなた方に教えるものであり、司祭たちが愚か者を欺くために発明した犯罪的な盲信を決して教えるものではない)

(盲信により、司祭たちは神、律法、賜物、そして聖霊たちを裏切るのである)

313年にローマに現れ、『黙示録』第13章で予見された不浄な聖職者たちは、神の子らに上述の神聖なる教義に背を向けさせ、その結果、彼らは生存者を三分の一に減らす懲罰の『火の洪水』を受けるに値する者となった。

来るべき聖職者の裏切りのゆえに、イエスと『黙示録』は、第二千年紀が終わる前に到来し生存者を三分の一に減らす『火の洪水』を予見したのである。

『マタイによる福音書』第24章および第25章。

『黙示録』第17、18、19、および20章。

預言者エリヤは、神がモーセ、預言者たち、そしてイエスを通して授け渡されたものを復興し、神からのものであり完全なる『永遠の福音』、すなわち『火の洪水』から残る三分の一の行動を律する『最後の聖書』である神主義(ジヴィニズモ)を授け渡すことになっていた。

そして、書籍『**永遠の福音と驚異の祈り**』は、すべての聖書の文書証拠、ならびに以下の根本的なものを含む深遠なる神聖なる真理とともに、あなた方の中にある。

原理あるいは神 – 遍在、全知、全能の神聖なる本質であり、そこからすべてが発出し、すべてを維持し、すべてを目的地へと導く。その目的地とは『完全なる再統合』である。霊と物質、諸世界と人類、そして相対的な法則は、本質的単一性、すなわち霊と真理へと回帰する。もし神が発出、顕現、創造を停止したならば、遍在する原理である神のほかには何も存在しないであろう。原理は完全であり、増大も減少もしないため、すべては顕現者と顕現であることを中心に回転し、すべてが顕現し、すべてが再統合する。これが神聖なる一元論(モニズモ)である。

子なる霊 – 発出された火花であり、創造されたものではない彼らは、すべての神聖なる美德を潜在的に帯びており、単一性すなわち霊と真理として神の懷へと回帰するまで、諸世界の懷において、受肉と脱肉の中でそれらを開発しなければならない。何人も永遠に神の子であるわけではない。すべては神の中の神へと回帰する。この叡智はヘルメス、クリシュナ、ピタゴラスによって教えられた。イエスは、本質的な「一」から派生し、完全なる「一」としてそこへ回帰するすべてのものの「模範たる御言葉」としての紛れもない性格を生きた。空の墓は飼い葉桶よりも意味深い。(これをよく理解しなさい)。

魂の乗り物あるいは霊周体(ペリスピリト) – それは、子なる霊が宇宙すなわち物質界において行動する手段を持つために形成される。霊の自己神化とともに、神聖なる合一すなわち再統合に到達したとき、霊周体の任務は終了する。極めて緩慢なのが自己神化、すなわち潜在的な神聖なる美德の開発である。すべては光と栄光の中で増大し、完全なる神性、完全なる合一へと至る。すなわち、相対性において失い、神性において得るのである。

物質あるいは宇宙(コスモ) – 物質とは、神聖なる本質、神聖なる光、エネルギー、エーテル、実体、気体、蒸気、液体、固体である。いかなる表現のレベルにおいても、それは神の子なる霊の道具である。(これを理解しようと求めない者は非常に不幸である)。

第二千年紀の終わりに、『火の洪水』があらゆる災厄のしるしを伴って到来し、生存者を三分の一に減らすであろう。根本的に揺るがされないものは何一つ残らず、不浄な聖職者たちと私生児たる主義(イズモ)の無知と偽善は永遠に清算されるであろう。以下の神聖なる真理についても研究し、黙想し、そして生きなさい。